

授業概要

本講義では、社会と人間との関係を、実際にあった現象から学んでいく。

私たちにとって現在起きた事件は「初めて」と感じることが多い。しかし、それはすでに過去において起こっていたこと、あるいは予見していたことである。

近代社会と現代社会を学ぶことにより、人間がどのように社会を形成してきたのかを客観的に見据え、過去の事例が現在の社会にどのように変容しているかを講義する。

授業計画

第 1 回	日本を題材とした歴史と物語「京都の魅力」
第 2 回	日本を題材とした歴史と物語「新選組と壬生狂言」
第 3 回	戦前の観光旅行雑誌とイベント
第 4 回	表現の自由をめぐる検閲とは？「非実在青年」とは誰か？
第 5 回	戦中期の検閲「無法松の一生」
第 6 回	戦中期の検閲「笑いの大学」
第 7 回	検閲、自主規制のついて考える
第 8 回	歴史的事件・人物を描くことの問題
第 9 回	表現とプライバシー1 三島由紀夫の「宴のあと」裁判
第 10 回	表現とプライバシー2 「エロス+虐殺」判例
第 11 回	表現とプライバシー3 「石に泳ぐ魚」をめぐる
第 12 回	マンガは事件をどのように描いたか？
第 13 回	映画は事件をどのように描いたか？
第 14 回	ドラマは事件をどのように描いたか？
第 15 回	ジョージ・オーウェル「1984」
第 16 回	筆記試験

到達目標

私たちの取り巻く社会の現実を見据え、時代、国により同じ事柄でありながら見え方が異なってしまうことを理解できる。

履修上の注意

積極的に授業へ参加。事前に調べたことやもともと知識としてあることなどを踏まえ、参加すること。小レポートではそれを反映させる。

予習・復習

予習：授業最後に次回の予習箇所を伝える。

復習：講義内容を踏まえ、小レポートにまとめる。

評価方法

授業態度 20%、授業内レポート 40%、学年末試験 40%。

テキスト

教科書は特に指定しない。 必要に応じて参考資料を授業内で指示する。

授業概要

私たちは、さまざまな人と人との関係（＝社会関係）のなかにいる。友人たちとの関係、家族との関係、近隣や職場の人々との関係。これらの社会関係のなかに、私たちはどう組み込まれて生きているのだろうか。また、それは時代とともにどう変わりつつあるのか。このような問いを掲げて、身の周りの社会現象の自明性やしくみを改めて問うのが、社会学である。その入門編である社会学 I では、知人間の情報伝達や家族間の関係のような身近な話題を取り上げて、その基本的なしくみや、現代における特徴を講義する。最近話題となった事件や、社会問題となっている事柄にも触れ、データや新聞記事などを活用しながら考えていくことで、情報の批判的な読み取り方についても学びながら、日本社会の現状についての理解を深められるように講義する。

授業計画

第 1 回	社会学とは何を考える学問か
第 2 回	社会学の方法
第 3 回	個人間の情報伝達のしくみ
第 4 回	異文化間コミュニケーションはなぜ難しいのか
第 5 回	パーソナルコミュニケーションの連鎖としてのうわさ
第 6 回	災害時のうわさとその社会的影響
第 7 回	新聞報道からみるマスコミの特性
第 8 回	コミュニケーションが作り出す「社会的現実」
第 9 回	現代家族の形態と機能
第 10 回	現代家族と子どもの教育
第 11 回	結婚しない若者たち
第 12 回	子どもを持たなくなった家族
第 13 回	家族問題としての DV・虐待と社会の取り組み
第 14 回	現代家族のゆくえ
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・現代日本社会で起きている諸現象や、いま社会問題となっている事柄についての基本的な知識を持つことができる。
- ・学んだことについて自分なりに整理して意見を述べられるだけの、考察力を身につけることができる。

履修上の注意

この授業は特定のテキストを用いるものではないので、毎回の授業をきちんと聞くことが不可欠である。積極的に出席し、学んだことをもとに社会現象について考えていこうとする、意欲的な態度での受講を期待する。

予習・復習

授業で紹介する参考文献やインターネット等を利用した自主的学習をしてもらう。授業で扱ったテーマに関連する社会観察や考察の課題を出し、その結果を授業内の小レポート等で書いてもらうことがある。

評価方法

学期末試験 70%、授業内に書く小レポート 30%。

テキスト

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年 (ISBN)：